

第6学年 外国語科 学習構想案

日 時 令和5年(2023年)9月21日(木)第5校時
 場 所 6年1組教室
 指導者 教諭 永野 里沙
 ALT Timothy Bowers

1 単元構想

単元名	Unit4 「Summer Vacations in the World」 (東京書籍 NEW HORIZON Elementary English Course® p34~41)		
単元の目標	(1) 世界と日本の夏休みの過ごし方について知り、自分たちの夏休みの思い出を紹介することなどについて、短い話を聞いてその概要が分かたり話したりすることができる。 [知識及び技能] (2) 自分のことをよく知ってもらうために、夏休みにしたことについて簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。[思考力・判断力・表現力等] (3) 自分の夏休みの思い出について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとする。[学びに向かう力、人間性等]		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「聞くこと」(ウ) 【知識】 I went to~, I enjoyed~, I ate~, It was~, 及びその関連語句などについて理解している。 【技能】 世界と日本の夏休みの過ごし方などについて、聞き取る技能を身に付けている。	「聞くこと」(ウ) 相手のことをよく知るために、世界と日本の夏休みの過ごし方について、短い話の概要を捉えている。	「聞くこと」(ウ) 相手のことをよく知るために、世界と日本の夏休みの過ごし方について、短い話の概要を捉えようとしている。	「話すこと」(イ) 【知識】 I went to~, I enjoyed~, I ate~, It was~, 及びその関連語句などについて理解している。 【技能】 自分の夏休みの思い出について、I went to~, I enjoyed~, I ate~, It was~, 及びその関連語句などを用いて、考えや気持ちなどを話すために必要な技能を身に付けている。
単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)			
ALTの家族が日本に来たときに「行ってみたい」「やってみみたい」と思ってもらうために、自分の夏休みの思い出について、必要な語句や表現を使って、分かりやすく伝える工夫をしながら、自分の考えや気持ちを伝えている児童。			
単元を通じた学習課題		本単元で働かせる見方・考え方	
Tim先生の家族が日本に来たときに「行ってみたい」「やってみみたい」と思ってもらえるような「夏休みの思い出ムービー」を作ろう!		自分の夏休みの思い出について、相手の文化や背景、興味・関心を踏まえて、相手によく伝わるように、既習事項を用いて、内容や表現を工夫すること。	
指導計画及び評価計画(8時間取扱い 本時5/8)			
過程	時程	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	1	○単元のゴールを共有する。 ○「(過去に)したこと」を表す言葉について知り、「夏休みに行ったところ」について伝える。	「話すこと」(イ) 【知】(行動観察・振り返りシート)

二	3	<p>○世界と日本の夏休みの過ごし方について知り、自分たちとの共通点や相違点について考える。</p> <p>○楽しんだことについて伝える表現について知り、夏休みにして楽しかったことについて伝える。</p> <p>○夏休みに食べたものについて伝える。</p> <p>○夏休みの思い出について、感想を交えて友だちに伝える。</p>	<p>「聞くこと」 (ウ) 【知】 (行動観察)</p> <p>「話すこと」 (発表) (イ) 【思】 (行動観察・振り返りシート)</p> <p>「話すこと」 (発表) (イ) 【知】 (行動観察)</p>
三	2	<p>○相手により分かりやすく伝えるようにスピーチを工夫して伝える。(本時)</p> <p>○アドバイスをし合い、改善をして、スピーチを聞き合う。</p>	<p>「話すこと」 (発表) (イ) 【思】 (行動観察・振り返りシート)</p> <p>「聞くこと」 (ウ) ★【思】 (行動観察) 相手のことをよく知るために、世界と日本の夏休みの過ごし方について、短い話の概要を捉えている。</p> <p>★【態】 (行動観察・教科書) 相手のことをよく知るために、世界と日本の夏休みの過ごし方について、短い話の概要を捉えようとしている。</p>
四	2	<p>○世界の夏休みなどについて考え、世界と日本の文化に対する理解を深める。</p> <p>○「夏休みの思い出スピーチ」をして「夏休みの思い出ムービー」を作る。</p>	<p>「聞くこと」 (ウ) ★【知】 (行動観察・教科書) 世界と日本の夏休みの過ごし方について、短い話の概要を捉えている。</p> <p>「話すこと」 (発表) (イ) ★【知】 (スピーチ・撮影した動画) I went to～. I enjoyed～. I ate～. It was～. 及びその関連語句などについて理解している。</p> <p>★【思】 (行動観察・振り返りシート) 自分の夏休みの思い出を紹介するために、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちを話している。</p> <p>★【態】 (行動観察・振り返りシート) 自分のことをよく知ってもらうために、夏休みの思い出を紹介することについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを話そうとしている。</p>

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所 (内容、指導事項等)	
小学校学習指導要領 2 内容	
[知識及び技能]	
(1) 英語の特徴やきまりに関する事項	
[思考力、判断力、表現力]	
(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項	
ア 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。	
(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項	
① 言語活動に関する事項	
ア 聞くこと	
(ウ) 友達や家族、学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現で話される短い会話や説明を、イラストや写真などを参考にしながら聞いて、必要な情報を得る活動。	
エ 話すこと (発表)	
(ウ) 簡単な語句や基本的な表現を用いて、学校生活や地域に関することなど、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを話す活動。	

教材・題材の価値

本単元は、夏休みの思い出を題材としたことから、世界の子供たちの夏休みの過ごし方を知り、自分たちの夏休みとの類似点や相違点を考えるのに適している。また、「夏休みの思い出ムービー」を作ろうという話題を通して、自分の経験や好み、考えを伝えたい思いが高まることが期待できる。

本単元における系統



児童の実態（単元のゴールにつながる学びの実態）

■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況（9/9人）

調査内容	
すること（動詞）や様子（形容詞）などについて英語で言うことができる。	44%
Do you～?やWhat～do you～?のやり取りで、尋ねたり答えたりすることができる。	78%
自己紹介や日常生活の紹介では、自分の言いたいことをスピーチで伝えることができる。	67%
おすすめの国について、see, eat, buy を使って紹介することができる。	78%

■本単元の学習に関する意識の状況（4「よく」、3「まあまあ」、2「あまり」、1「ない」）

質問内容	よく	まあまあ	あまり	ない
友達と英語で話すとき、進んで話そうとしている。	22%	78%	0%	0%
英語で反応したりさらに質問したりして会話を続けようとしている。	44%	56%	0%	0%
知っている英語の表現をできるだけ使おうとしている。	56%	33%	0%	11%
世界の人々の生活の仕方や日本との違いなどについて興味をもっている。	44%	56%	0%	0%
分からないことがあった時は、どうしていますか？				
・聞き返したり質問したりする6人 ・自分で考えたり調べたりする3人 ・教えてもらうのを待つ0人 ・何もしない0人				

■考察

【資質・能力に関して】

前単元で会話に用いた see, eat, buy, go などの一般動詞が定着している児童が大半である。味や様子を表す形容詞については、ほぼすべての児童がスピーチで用いることができている。

【学びに関して】

ペア活動や時間を決めて行うスモールトークを継続してきたことで、多くの児童が進んで話したり、会話を続けようとしていたりしている。中間指導では、初めは分からないことや話したいことが児童からほとんど出なかったが、現在では、分からないことを進んで聞こうとする児童が増えている。

3 指導に当たっての留意点

- 導入時にALTの家族から届いた動画を見せ、来年日本に旅行に来られるALTの家族に日本の夏休みについて知ってもらい、「行ってみたい」「やってみたい」と思ってもらおうという目的を共通理解することで、意欲付けにつなげる。
- 単元のゴール (Our goal) は、誰に紹介するか (相手意識)、何のためにスピーチにするか (目的意識)、児童とのやり取りを通して設定し、目的意識をもって学習できるようにする。
- 単元のゴールに向かうためには、どんなことを学ぶ必要があるか、児童とのやり取りを通して学習計画を立て、バックワードデザインで児童と共に単元の見通しをもつことができるようにする。
- 書く活動では、毎時間「わたしのせりふ」を書き足していただくだけではなく、学習の過程で生まれた表現の工夫をつけ加えてせりふを膨らませていくことで、児童が無理なく書くことができる喜びや、「わたしのせりふ」が完成していく喜びを感じることができるようにする。
- 授業支援アプリのXチャートを用いて、思考を整理させることで、スピーチの内容を考えることが苦手な児童もスピーチの内容を考えられるようにする。
- 一般動詞の過去形を使った英語の表現に児童が慣れ親しみやすくするために、授業支援アプリを使い、カードを動かしながら、視覚的に理解したり、英語で言やすくしたりする。
- 4/8時間目 (授業中・家庭学習) に撮影した動画と8/8時間目に撮った最後のスピーチを聞き比べて、自分の成長を感じることができるようにする。

4 本時の学習

(1) 目標 夏休みの思い出について、相手により分かりやすく伝えるように、スピーチを工夫して伝えることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◎主となる活動◇予想される児童の発言)	指導上の留意点 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
つかむ	10分	1 Warm-up ①Greeting ②Chant ③Small Talk (ペア 1→中間指導→ペア 2) [How was your summer vacation?] 2 教師のスピーチとALTのスピーチを聞き比べ、本時のめあてを立てる ◇Tim 先生の方が分かりやすかった。 ◇Tim 先生は、質問しながら話していた。	○既習表現を想起できるようにスマールトークを行う。 【「問い」を生み出す手立て】 ○本時のめあてを提示する前に、Our goal に立ち返り、「誰に」「何のために」スピーチするのかを確認し、目的意識をもつことができるようにする。
		【Today's goal】 スピーチがもっと分かりやすくなるように工夫して友達に伝えよう！	
ひ	10分	3 Thinking time 1 前時と家庭学習の振り返り (タブレット) ①『「ひ」ひとりで考えます』 4 Activity 1 ペアで夏休みの思い出を伝え合う。	○前時と家庭学習で撮影した自分のスピーチ (動画) を視聴し、既習事項を復習する。 ○既習表現だけで友達に夏休みの思い出を伝える。活動が終わったら、アドバイスをし合ったり、感想を伝えたりする。
と	20分	5 Thinking time 2 ②『「と」ともだちと考えます』 ・より分かりやすいスピーチにするには、どのようなことを工夫するとよいか考える。 ◇Do you know?などと投げかけを入れよう。 ◇You can see などを使ってみよう。 ・よい反応をしていた児童の紹介 6 Thinking time 3 ③『「よ」より深く考えます』 ◎児童が自分で学習方法を選び、よりよいスピーチするために工夫する。	○次の Thinking time 3 で、より分かりやすいスピーチにするためには、どのような工夫をすればよいか、それぞれの児童が自分の思いをもつことができるように、ペアで考えたり全体で確かめたりする。 ○自分の目的に合った方法で学習ができるように、事前に学習方法の選択肢 (デジタル教科書、picture dictionary、教師のスピーチ動画、友達や教師に尋ねる等) を示しておき、選べるようにしておく。
よ		7 Activity 2 ◎ペアを代えて夏休みの思い出を伝える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 【期待される対話の姿】 学習した表現を使い、Thinking time で考えたことを生かしながら、夏休みの思い出について友達に伝えている。 </div> 代表者が発表し、よかったところを全体で共有する。 8 Let's read and write. 本時で学習した表現をワークシートに書く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 指導に生かす評価「話すこと」 (発表) (イ) 【思①】 (行動観察・振り返りシート) スピーチがより分かりやすく伝わるために夏休みの思い出を紹介することについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちを話している。 </div> 【到達していない児童への手立て】 ○本人の言いたいことに合わせてヒントを与えたり、picture dictionary を見たり、録音を聞いたりして自信をもって伝えられるようにする。 ○工夫して伝えることができた表現などをワークシートに書く。
し	5分	9 学習のまとめ・振り返りを行う ④『「し」しっかり理解します』 振り返りシートに本時の振り返りを書く。 ◇授業の最初より、スピーチがレベルアップしたな。 ◇Tim 先生の家族に分かりやすく伝えたい。	○振り返りを書く前に Our goal と Today's goal を確認し、本時の自分の学びがどれくらいゴールに近づいたか振り返る。
【振り返り】 Our goal に対して、今日の自分の学びはどうだったかについて振り返る。(どれくらいゴールに近づいたのか、次の学習ではどのようなことができるようになりたいか)			

【板書計画】

Thursday	September	21 st	sunny
Our goal	Tim先生の家族が日本に来たときに「行ってみたい」「やってみたい」と思ってもらえるような「夏休みの思い出ムービー」を作ろう！		
Today's goal	スピーチがもっと分かりやすくなるように工夫して友達に伝えよう！		
Today's menu	【したこと】を表す言葉		○質問する、投げかける ○You can see～
sing chant	<input type="text"/>	<input type="text"/>	【Thinking time 3】 <ul style="list-style-type: none">・先生の動画を見る・picture dictionary・デジタル教科書・授業支援アプリのメモ・先生や友達に聞く
small talk	<input type="text"/>	<input type="text"/>	
game	<input type="text"/>	<input type="text"/>	
Activity 1	<input type="text"/>	<input type="text"/>	
Thinking time	<input type="text"/>	<input type="text"/>	
Activity 2	<input type="text"/>	<input type="text"/>	
Reflection	<input type="text"/>	<input type="text"/>	

【ICT活用計画】

教師による教材提示の計画、ICTを活用した発表、まとめ等による考えの共有の計画等

○【教材提示】

単元の導入場面では、教師が夏休みの写真を電子黒板で提示しながら、「夏休みの思い出」についてスピーチし、ゴールの姿を児童と共有する。

○【ICTを活用した発表】

スピーチづくりでは、授業支援アプリのXチャートを活用して、「行ったところ」「見たもの」「したこと」「食べたもの」「感想」など、視点を分けて考えさせることで、思考の整理をしやすいとする。また、単元の終末では、それぞれが夏休みに撮影した写真を見せながらスピーチをする。

○【新出単語・新出表現の練習】

本単元で学習する一般動詞の過去形などの新出単語・新出表現は、児童が楽しみながら言い方に慣れることができるように、授業支援アプリを活用し、「ラッキーカードゲーム」（新出表現を用いて話す力を付ける）、「make sentence ゲーム」（条件に合わせて話す力を付ける）など、目的に合わせた活動を取り入れる。ゲームは、短い単語を聞いたり言ったりする簡単なものから、自分で言葉を選んで文を作って話すものへと段階的に取り入れていく。

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

単元の終末では、見方・考え方を働かせて次の学習に取り組む

- 本単元で働かせた見方・考え方を生かして、単元終末の「Challenge」（p 41）では、「ALTの家族に日本の夏休みの過ごし方について紹介する」という課題に対して、学んだことを使ってスピーチしたことを撮影し、動画を通じてALTの家族と英語を使って交流する。